

## グローバルユースフォーラム

「グローバル人材への第一歩」をテーマに、グローバルに活躍する講師による講演とワークショップを行います。

日時 9月21日(土)13:00~17:00

① 講演 13:00~14:30 安田 菜津紀氏(フォトジャーナリスト)

② ワークショップ 15:00~17:00 辰野 まどか氏  
(一社)グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)代表理事

場所 名古屋国際センター 別棟ホール

対象 講演:中学生以上の方  
ワークショップ:講演に参加する15~35歳の方優先

定員 講演:100人  
ワークショップ:60人(申込先着)

参加費 無料



▲安田 菜津紀氏

1987年神奈川県生まれ。Dialogue for People(ダイアログフォーピープル)所属フォトジャーナリスト。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとしてカンボジアで貧困にさらされる子どもたち取材。現在、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。著書に「写真で伝える仕事 -世界の子どもたちと向き合って-」(日本写真企画)、他。上智大学卒。現在、TBSテレビ「サンデーモーニング」にコメンテーターとして出演中。

申込方法 8月13日(火)10:00より、電話、メール、ウェブサイトおよび直接来館にて受付。定員に達し次第締切。

問い合わせ 交流協力課 ☎ 052-581-5691 ✉ koryu@nic-nagoya.or.jp

## やさしい日本語って、どんな日本語?

子どもニック・ニュース夏休み号

### 「すごろくで学ぼう!やさしい日本語」

今年の「子どもニック・ニュース夏休み号」は、「やさしい日本語」について、すごろくで楽しく学べる内容です。

現在、名古屋市内には約150か国の国や地域の多様な言語を使う人々が住んでいます。わたしたちが普段使っている日本語を、誰でも理解できるように配慮した言葉が「やさしい(易しい・優しい)日本語」です。どんなことを工夫したら、伝わりやすくなるのでしょうか。

「やさしい日本語」を通して、全ての人々にとって「やさしいまち」を感じてもらいたいと考えています。名古屋市内の小学校高学年(4~6年生)に配布しています。

NICおよび市内図書館、児童館、生涯学習センターなどに配架するとともに、NICのウェブサイトからダウンロードできます。



こちらからご覧いただけます▶



## 「世界のいただきます」をつくってみよう!

「子どもニック・ニュース夏休み号」で紹介した「カリフォルニアロール」を、実際に作ります。外国人講師をゲストに招き、現地で人気の食べ方など楽しい話を聞きながら親子で異文化交流をしてみませんか?

日時 8月24日(土)14:00~16:00

場所 名古屋国際センター3階第1研修室

参加費 1人500円

対象および人数 小学生と保護者15組

申込方法 8月8日(木)10:00より電話で受付  
先着順・定員になり次第締切  
☎ 052-581-0100



問い合わせ 広報情報課 ☎ 052-581-0100

## 絵本のひろば

参加無料

NIC ライブラリー子どもまつり

思わず手にとってしまう世界の絵本がいっぱい。映画上映、外国人スタッフによる絵本の読み聞かせ、外国の遊びや音楽・踊り、世界の民族衣装の紹介などなど、家族で参加できる楽しいイベントがもりだくさん!絵本を通して世界の人々の暮らしや文化に触れてみましょう!!



日時 8月17日(土)10:00~17:00  
8月18日(日)10:00~16:00

場所 名古屋国際センター3階ライブラリー・情報カウンターなど

8月中は夏休みクイズラリーも開催!

時間 9:00~19:00(受付18:30まで)

休 月曜日・8月11日(日)

問い合わせ 広報情報課 ☎ 052-581-0100

この印刷物は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。



# Nic NEWS

愛称はニック(NIC)です

NAGOYA INTERNATIONAL CENTER

No.393 2019 8・9

隔月刊ニック・ニュース No.393 令和元年 8月1日発行  
発行編集 公益財団法人名古屋国際センター



本事業は、名古屋市の指定管理事業です。  
〒450-0001 名古屋市中村区那古野1丁目1番1号 名古屋国際センタービル内 TEL052-581-0100 FAX052-581-1467  
✉ info@nic-nagoya.or.jp ✉ info@nic-nagoya.or.jp



ランタンナイト(ベトナムフェスタにて)P1

## 特集

## 名古屋で世界とつながる

~コミュニティイベントの役割~

- 特集 P1~P4
- NICあれこれ探検隊 P5  
交流イベントはぜひNIC貸し施設で
- ぶらりライブラリー P5  
教育と民主主義
- NICレポート P6  
書き損じはがき贈呈式  
多民族国家オーストラリアに学ぶ
- 国際留学生会館から P7  
アディル エル ハッディさん(モロッコ出身)

- ともくら P7
- リーダーズアイ P8  
ホープ・インターナショナル開発機構
- 姉妹友好都市の広場 P8  
トリノ市
- NIC PAGE P9・P10
- NIC注目イベント 裏表紙

名古屋国際センターへは、地下鉄桜通線「国際センター」駅下車が便利です。

### 情報満載

<http://www.nic-nagoya.or.jp/>

各種お問い合わせは、3階情報カウンターまでどうぞ。  
☎ (052) 581-0100



● 情報サービスコーナー、ライブラリー ●  
火~日曜日9:00~19:00(月曜休館)  
● 貸し施設 ●  
月~日曜日9:00~21:00(予約受付は9:00~17:30)

### 名古屋国際センター休館のお知らせ

令和元年8月11日(日)はビル整備点検のため休館します。

# 特集 名古屋で世界とつながる ～コミュニティイベントの役割～

少子高齢化が加速し、労働人口の減少を補うため、この4月に入管法(出入国管理及び難民認定法及び法務省設置法の一部を改正する法律)が改正されました。

名古屋市には、約8万6千人、約150か国・地域から来ている人々が暮らしています(令和元年6月現在)。入管法の改正に伴い、製造業の集積地であるこの地域にますます多くの外国人を受け入れ、多様な国の人々と共に暮らす多文化共生の時代を迎えています。

最近、名古屋市内の繁華街では諸外国の文化や社会を紹介するさまざまな国のフェスティバルが毎週のように開催されています。名古屋にしながら異文化に触れられるこうしたイベントに関わる人々の思いを取材しました。

## ベトナム

名古屋市在住外国人人口で3番目に多いベトナム(6月現在で、10,130人)。全国でも増加傾向にあります。その多くが技能実習生、留学生として来日しています。

### ベトナムフェスティバル in 愛知

故郷をなつかしむ!



会場で友人たちとおしゃべりに花を咲かせていた技能実習生の若いベトナム人女性は「故郷の料理や歌が恋しくなるので今年も来ました」と笑顔で答えてくれました。

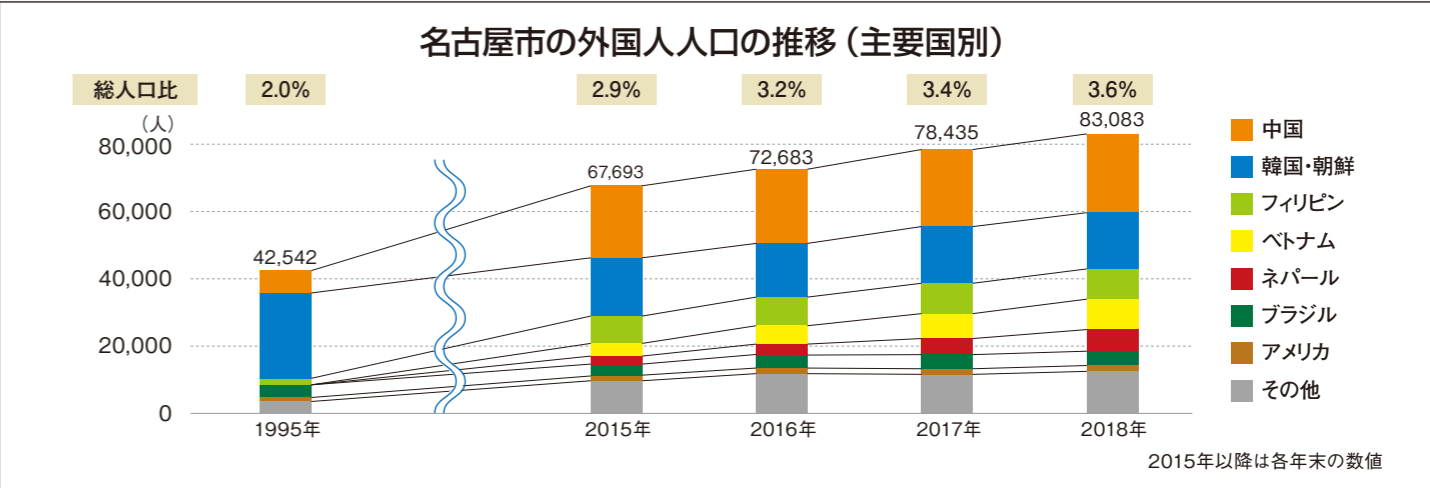


6月、中区大須のレンタルスペースにてベトナム交流会が開催されました。4回目となる今回の交流会には、ベトナム人の技能実習生と留学生、日本人の大学生や社会人など、若者を中心に52名が参加してクイズやゲームなどで大いに盛り上がりました。この会は企画運営の中心スタッフ大山和馬さんが、多くの日本人にもっとベトナムを知ってほしいという思いから、昨年5月に立ち上げました。大山さんは学生時代にオーストラリアを旅行した際ホストマザーがベトナム人だったことからベトナムに関心を持ったそうです。回数を重ねる内に、知り合った者同士で食事会ができるなど新しいつながりが生まれています。毎回、日本語やベトナム語ができない人も満足できるようなプログラムをベトナム人と日本人がともに考えているそうです。

▲参加者とスタッフ ▲主催者の大山和馬さんとスオンさん

ベトナム日本外交樹立45周年を記念して開催された昨年のフェスティバルに続いて、今年も4月に中区栄の久屋広場で、ホーチミン観光局事務局長や人気歌手が駆けつけて開催されました。ベトナムとの交流や支援などに関わる有志達から成る実行委員会が主催しています。70店の雑貨や料理のブースでは大勢のベトナムの人々だけでなく、日本人の人々もそれぞれに買い物や食事を楽しんでいました。その光景を前に「ベトナムの人々が仲間と一緒に故郷をなつかしむ、日本人の人々にベトナムをより近く感じてもらう草の根の国際交流イベントです。民間の力でこの灯を消さないで続けていきたい」と実行委員長の田中和生さんは思いを語ります。

VARONET(ベトナム帰国愛知留学生ネットワーク)のメンバーとして通りすがりの人々に呼びかけていた大学生のファムさん(来日3年)は、会の活動について熱心に紹介していました。この会では、ベトナム人留学生の日本企業への就職を支援するため、奨学金の案内や、企業と留学生の交流会、企業で働く先輩による報告会などを行っているそうです。



## 寄稿 入管法改正と地域社会 多文化共生の時代へ

明治大学国際日本学部教授 山脇啓造

本年4月1日に、「出入国管理及び難民認定法及び法務省設置法の一部を改正する法律」(2018年12月8日成立)が施行され、政府は「深刻な人手不足の状況に対応するため、一定の専門性・技能を有し、戦力となる外国人を受け入れる」ために、在留資格「特定技能」の運用を始めました。また、法務省の入国管理局が改組され、同省外局として出入国在留管理庁(入管庁)が設置されました

法務省の統計によれば、2018年12月末現在、約273万人の外国人が日本に暮らしています。在留外国人の数は、戦後ほぼ一貫して増え、特に1990年代以降大きく増えましたが、リーマンショックと東日本大震災の影響で、一時期、減少しました。しかし、2013年以降、再び大きく増加して、現在に至っています。現在、日本の総人口の約2%を外国人が占めています。

### 入管法改正の要点

「特定技能」は、「特定技能1号」と「特定技能2号」に分かれます。前者は「特定産業分野に属する相当程度の知識又は経験を必要とする技能」を持った外国人に認められ、後者は「特定産業分野に属する熟練した技能」を持った外国人に認められます。前者の在留期間は最大5年で、家族の帯同は認められませんが、後者は在留期間の更新が可能で、家族の帯同が可能です。但し、後者の運用は2021年度まで見送られました。

今回、新設された在留資格「特定技能」によって、今後5年間に14分野あわせて最大34万5,150人の外国人の受入れが予定されています。受入れ分野別の内訳を見ると、介護(60,000人)、外食(53,000人)、建設(40,000人)、ビルクリーニング(37,000人)、農業(36,500人)、飲食物品製造(34,000人)、宿泊(22,000人)等となっています。

「特定技能1号」の在留資格を取得するためには、技能試験と日本語試験に合格する必要があります。但し、技能実習2号を修了した外国人は試験が免除となります。これまで、介護、外食、宿泊に関する技能試験が実施されています。


4月に設置された入管庁は、出入国管理部と在留管理

支援部の二部体制で、在留管理支援部に在留支援課が置かれ、外国人支援を所管しています。また、全国8都市にある出入国在留管理局が地方における取り組みを進めていますが、外国人の受入れ環境整備を目的として、地方入管局及び3つの支局に、受入環境調整担当の統括審査官11人、東京局及び名古屋局においては更に入国審査官各1人の合計13人の担当者が配置されています。これらの人員は、自治体との窓口役を担い、「外国人との共生社会の実現に向けた諸施策」を推進します。

### 地域社会の取り組み 一共生の意識づくり

政府は、今回の新制度の導入について、現在の人手不足への対応策であることを強調していますが、今後、日本の総人口そして生産年齢人口が大きく減少していくことを考えると、人工知能(AI)やロボットが普及したとしても、日本に暮らす外国人の数がさらに増加していくことが予想され、国籍や民族などが異なる人々が共に生きる社会づくりは喫緊の課題と言えます。

政府は、2018年12月の入管法改定にあわせて、「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」を取りまとめました。総合的対応策に示された施策の大半は、外国人支援(生活・就労環境整備)に関するもので、受け入れ社会に働きかける取り組みがほとんど含まれておらず、共生社会づくりの視点が弱いと言えます。今後は、自治体が学校や市民団体などと連携して、地域社会における多文化共生の意識づくりに取り組むことが重要でしょう。



やまわき けいぞう  
山脇 啓造氏

明治大学国際日本学部教授。専門は移民政策・多文化共生論。総務省や外務省など国及び東京都や愛知県など自治体の外国人施策関連委員を歴任。2012年にオックスフォード大学で欧州の移民政策を研究。近著に『新 多文化共生の学校づくりー横浜市の挑戦』(明石書店)。

特集 8月は名古屋市多文化共生推進月間です

特集 8月は名古屋市多文化共生推進月間です

国籍別人口では市内第5位ですが、増加率は最も高いネパールの人々。

名古屋で初めての開催!

## ネパールフェスティバル

6月中旬、久屋広場はネパールの人々の熱気で溢れていました。週末の2日間開催されたフェスティバルは、バンド演奏、ネパールの歌と踊り、ファッションショー、食・文



▲会場入り口

化・バザールと盛りだくさんの内容でした。実行委員の愛知県海外在住ネパール人協会会長のK.C.ディパックさんによると、愛知県には約8,500人、東海三県には約1万人ものネパール人が住んでおり、ネパール人による小さなコミュニティは、日本の主要都市にもたくさんあるそうです。



▲ネパールの女性たち

多くのネパール人が来日する中、災害支援活動や、来日するネパールの若者たちへの支援で多忙な日々を送ってきたディパックさんは、このフェス

ティバルへの期待を次のように語ってくれました。「ネパール人が互いに助けられるようコミュニティの結束の必要性を感じ、ネパール人同士が交流する機会にしたい。」

フェスティバルを訪れた人の中には仕事を休んできた人もたくさんいました。在住20年、市内でインド・ネパールレストランを経営しているダウラギリさんのこのイベントにかける思いはディパックさんと同じで、イベントを通してネパールのことをもっと日本の人々に知ってほしいということでした。ディパックさんは、「ネパール人だけでなく日本の人々にも多く参加してもらえたのがうれしい。今後もフェスティバルを続けていきたい」と語っていました。



▲ステージの前で盛り上がる人々

留学生が勢ぞろい!

## ネパールファッションショー

5月のある週末の夜、中区役所ホールでネパールの留学生たちによるファッションショーが開催されました。ファッションショーは、ネパール人グループのSahashi Nepaliが、日本の人々にもっとネパールを知ってもらい、実際に訪れてほしいという気持ちで企画したものです。ショーに先立って放映された映像では、諸地方の暮らしや名所・旧跡など、豊かな観光資源が紹介されました。



▲モデルの留学生のみなさん

照れながらステージを歩くモデルは、それまでモデル経験のない留学生たちでした。ネパールの7つの地方のカラフルな民族衣装を身にまとい、音楽に合わせ踊りながらステージを歩いていました。衣装は、Sahashi Nepaliが現地で入手したものです。「地域によって文化が異なり、それぞれ特徴がある。そんなネパールの多様性を知ってほしい」と代表のサンジュ・ラビンさんは話していました。



▲山岳コスチュームで



▲楽しくダンス

おしらせ

「多文化共生都市 NAGOYAをつくらう！」

参加無料

今年の「多文化共生推進月間」のメインイベントはタレント・漫画家の星野ルネ氏による講演会とパネルトークです。この機会に「多様性」の大切さを一緒に考えませんか。

- (1)講演「アフリカ少年がひとつ空の下でトークショーをした結果」
- (2)パネルトーク「多文化共生都市NAGOYAをつくらう！」

【定員】100人(抽選) 【場所】名古屋国際センター別棟ホール 【日時】8月29日(木)13:30~16:30(開場13:00)

【申込方法】以下どれかの方法で①お名前②参加人数③連絡先電話番号とメールアドレスをお伝えください。

☎052-571-2139 FAX 052-561-2139 ✉nagoya-kokusai@chucu.co.jp 【締切】8月18日(日)



▲星野ルネ氏



## ラテンアメリカフェスティバル

日本の人々に  
南米文化を  
広めたい!

ブラジル、ペルーをはじめ1990年代、東海地域には多くの日系南米人が働くために来日し、その後定住し、家族とともに暮らしています。

4月にラテンアメリカフェスティバルが、買い物客で賑わう大須商店街(中区)で開かれました。主催者は、商店街で南米雑貨を取り扱う「フキオラテンアメリカ」オーナーのペ



▲パレード

ルー人、ワマン・ミゲルさんです。同胞の人たちで楽しむというより、日本の人々が南米の音楽を聴き、踊りを見て楽しんでもらえるようにという目的のこのフェスティバルは、今年で10回目を迎えました。企画・運営には、



▲ワマン・ミゲルさん

ミゲルさんの思いに賛同したボランティアが携わっています。出演団体は、ペルーやブラジル、メキシコ、ボリビアなど中南米出身者を中心としたグループです。当初数年間は資金面での苦労がありましたが、今では大須の恒例イベントとして認められ、名古屋市と大須商店街連盟からの助成金を受けています。

毎年家族で出演しているエクアドル出身の佐伯リリアナさんは、「文化を紹介するだけでなく、日本育ちの子どもたちに自分のルーツである文化を継承する場にもなっている」と話していました。

## 名古屋国際フィリピンフェスティバル

コミュニティイベントの  
さきがけとして35年

毎年、NICを会場に開催される「名古屋国際フィリピンフェスティバル」は、今年35周年を迎え、名古屋における外国人コミュニティによるイベントの先駆的な役割を果たしてきました。このフェスティバルの主催者である、中部フィリピン友好協会(CPFA)会長のリンダ・タキさんにこれまでを振り返っていただきました。

1980年代、出稼ぎや日本人男性との国際結婚で名古屋に住むフィリピン女性たちが急増しました。英語・日本語・フィリピン語が堪能なリンダさんのもとにはさまざまな相談や警察、入国管理局からの通訳依頼が寄せられ、問題解決の仲介として奔走することになりました。



▲歴史を物語るパンフレット

母国に残してきた貧しい家族への毎月の「仕送り」についてうまく伝えることができず、日本人の夫や親族から理解を得られずに孤立するなど、妻たちにとって「日本語の壁」は大きなものでした。

「フィリピンは階層社会で貧しい者と裕福な者の接点は日常あまりないが、ここ日本では出稼ぎ女性、労働者、ビジネスマンなどすべてのフィリピン人が交流して一堂に集い、力を合わせられるような機会を作りたい」とリンダさんはイベント開催を決心したそうです。

企画にあたり、大使館、行政、企業等にサポートを依頼したものの、「フィリピン女性への偏見」があり相手にされない時も、リンダさんは「難しい」は「NO」ではなく可能性があるポジティブにとらえました。あきらめず足を運び続け、協力者を増やしフェスティバルは1年に1度、名古屋や近郊に暮らす

フィリピン人家族たちが集う一大イベントとして定着することになりました。

最近では、各地でフィリピン人のボランティアグループが生まれ、それぞれの地域で新たな活動が始まっているので、フェスティバルへの参加者は徐々に減っています。それでも、入管法改正で今後新たに来日する外国人が見込まれるなか、こうしたイベントの役割はさらに大きくなるので続けてほしいという声が寄せられています。



▲リンダ・タキさん

フェスティバルの運営にはフィリピンに関心が高い女子大学生ボランティアもたくさん関わってくれています。80年代から一緒に盛り上げてきたフィリピン人女性たちが、出入国在留管理庁や司法通訳の場など日本社会で活躍している姿も、この活動が生みだした成果だと考えています。

今回の取材を通して、こうしたコミュニティイベントが日本に暮らす外国人にとってとても大切な機会になっていることを強く感じました。母国の言葉で思う存分おしゃべりをして、故郷をなつかしみ、そして異国で共に助け合う絆を深める場になっているのでしょう。そして、主催者からは自分たちの国の素晴らしさを日本の人々にも知ってほしいという意気込みも伝わってきました。

料理や音楽、ファッションなど、「楽しい」をそこに参加した誰もが一緒に体感して「笑顔」になる。フェスティバルやイベントにはそんな「力」があります。

新しいことに会うことで自らが変わっていく...多様性との出会いを楽しんでいける社会であってほしいです。

# NIC あれこれ探検隊

このコーナーでは、日ごろあまり表に出ることのないNICの事業やボランティアスタッフの活動などをご紹介します。みなさんの知らなかったNICのあれこれを見つけてみてください。

## 交流イベントはぜひNIC貸し施設で

名古屋国際センター(NIC)では、別棟ホール・会議室(6部屋)・展示室(3部屋)・研修室(3部屋)・和室の貸出(有料)を行っています。ビジネス利用のほか、サークル活動、国際交流イベントなど、様々な用途にご利用いただいています。今回は、NIC貸し施設ならではの、国際交流団体や在住外国人による利用についてご紹介します。

別棟ホールでは、この地域で活動する国際交流団体によるフェスティバルが毎年開催され、フィリピン、ハンガリーやインドネシアなど各国の文化や料理を楽しみながら、この地域で暮らす外国人と交流できる機会とあって、多くの方で賑わいます。

また、名古屋市内で増加傾向にあるネパール人のコミュニティによる利用も増えており、これまで新年会やネパール映画の上映会のほか、TEEJ(ティーズ)と呼ばれ

る女性のためのお祭りが開催され、色鮮やかな民族衣装を身にまとったネパール人の姿を目にすることもあります。

さらに、外国人が主催するミーティングやカルチャー教室等での定期利用もあり、中国出身講師による気功教室、英語教師が集まる勉強会、日本の風景をテーマとした写真展等も開かれ、NICの貸し施設が国籍等の垣根なく、交流の場としても多くの方にご利用いただいていることに、地域の国際化推進に取り組むNICの担当職員としてうれしく思います。

一般参加が可能な国際交流イベント等は、NICウェブサイトで案内しています。ぜひNICに足をお運びください。



▲展示室での気功教室

NIC貸し施設は、1年前から予約を受け付けています。ミーティングやイベントの会場をお探しの方は、お気軽にお問い合わせください。  
 問 総務課(貸し施設担当) ☎052-581-5679 (予約受付9:00~17:30)

# ぶらり ライブラリー

特に目的があるわけではないけれど、ぶらっと来てみたら、気になることに出合える場所。このコーナーではNICライブラリーと、ライブラリーの本をご紹介します。  
 NICライブラリー 名古屋国際センタービル 3階 9:00~19:00 月曜休館

## 教育と民主主義

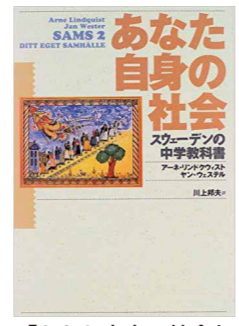
スウェーデンは投票率が高く、2018年の国政選挙では87%を越えたそうです。若者も自分の意見をしっかり持つと言われていました。スウェーデンの若者が、どのように社会の一員としての自覚を確立していくのかに興味があり手に取った本です。

スウェーデンは多くの国と同様法治国家ですが、社会の事柄が法律で運営されること、法律は権利を与え、義務も課すことを早い段階から教育します。法律を知っていることはすべての人の義務であり、法律が多いから知らなかったということがその責任や刑罰をまねがれる理由にはならないことも教えます。

この本はスウェーデンの国民が13歳から成人に達するまでの各年齢で法的に可能になること、そしてその年齢になると負う責任について具体的に紹介しています。どの章にも学んだことに対する課題があり、自分

の意見をまとめたり、制度の盲点や危険性を考えさせる構成になっています。こうして自分の置かれた立場で様々なことを考える機会を十分に与え、時間をかけて話し合うことで、法律や制度が押しつけではなく、皆が納得し、合意の上で成り立っているという感覚を育むのかもしれないと感じました。

一人ひとりの貢献と参加を社会の土台とすることで多様性を担保し、柔軟で包容力のある社会を保ち、民主主義を実践する。この長期的な展望に基づいて行われているスウェーデンの教育を垣間見ることが出来ます。



「あなた自身の社会」

クイズ Q.スウェーデンの成人は何歳からでしょう。

# NIC レポート

## 書き損じはがきをご寄付いただきました

下記団体より、NICが事務局を務める“世界寺子屋運動”名古屋実行委員会へ、書き損じはがきのご寄付をいただきました。ご協力いただきました皆さまに御礼申し上げます。ありがとうございました。



日本労働組合総連合会  
愛知県連合会 (連合愛知)  
19,535枚(約92万円相当)



日本郵便株式会社  
名古屋市南部地区連絡会・同北部地区連絡会・同中部地区連絡会・西尾張地区連絡会・中尾張地区連絡会・知多地区連絡会・西三河地区連絡会・東三河地区連絡会  
49,883枚(約234万円相当)



世界寺子屋運動 KARIYA実行委員会  
事務局：刈谷市社会福祉協議会  
18,025枚(約85万円相当)

書き損じはがきキャンペーンとは.....

書き損じたり、汚れたり、余ってしまったはがき(ポストに投函していない通常はがき、年賀状)を集め、途上国の識字教育を支援しています。例えばカンボジアでは、書き損じはがき11枚で1人が1か月間、学校に通える資金になります。未使用切手も集めています。ご協力、よろしくお願いたします。

問 (公財)名古屋国際センター交流協力課内  
“世界寺子屋運動”名古屋実行委員会事務局 ☎052-581-5691 詳しくはこちらをご覧ください。▶

## 多民族国家オーストラリアに学ぶ モナシュ大学主催ワークショップ@NIC

4月22日、名古屋国際センターで、ワークショップ「多文化背景をもつ若者と自己表現～オーストラリアの実践者を迎えて～」が開催されました(主催:モナシュ大学(オーストラリア)、共催:NIC、後援:一般財団法人自治体国際化協会)。モナシュ大学教授の岩淵功一氏が企画し、ビクトリア州メルボルンの移民博物館のプログラム・コーディネーターであるジャン・モロイ氏と、小説家のアリス・ブン氏を迎え、多民族国家オーストラリアにおける取組事例を紹介しました。

ジャン氏によれば、ビクトリア州の住民の4割以上が「本人または親が国外で生まれた」という多文化背景を持っているそうです。異文化の中に育つ若者は、時に自分の帰属意識について悩みを持つことがあります。移民博物館は、地元の音楽家や小説家などによるワークショップを行い、様々な形の自己表現によって若者の文化的多様性を奨励しています。

アリス氏による「アイデンティティと向き合うワークショップ」は、自分の家の食卓について絵や文章で表現するという内容でした。参加者は「ブラジルに住んでいた幼いころ、家族の食事は古い日本のルールを厳格に守って

いて、年長者の曾祖父が箸をつけるまでは誰も食事を始めることができなかった。でも大家族での食事は楽しかったし、料理はブラジル料理も並んでいた。」(日系ブラジル人参加者)、「祖父は沖縄出身なのでペルーでは日本料理として沖縄料理を食べていた。自分は日本で生まれた息子にペルー料理を食べさせている。」(日系ペルー人参加者)など各々のエピソードを語り、ルーツを振り返りました。また、両親がカンボジア難民であるアリス氏は、食事をきっかけに、父親が大虐殺時代の飢餓体験を冗談交じりに話していた風景を思い出すことを話し、「食」という素材から記憶をひも解き、言葉や絵で共有する作業によって、自身のルーツと向き合うことができます」と語りました。

グローバル化が加速する時代、ルーツやアイデンティティを一つに絞る必要はなく、多文化の中で生きること自信を持てるような社会を目指したいと感じるワークショップでした。



▲アリス氏(中央)のワークショップの様子

# 国際留学生 会館から

## 「留学生による外国語講座」 ～英会話を通じて深まる市民との絆～

شكرا جزيلاً  
شكراً・ジャジーラン  
ありがとうございます。  
(アラビア語)

名古屋商科大学大学院マネジメント研究科  
マネジメント専攻修士課程2年生  
アディル エル ハッディさん(モロッコ出身)



国際留学生会館(以下「ISC」)では一般市民を対象に、春期と秋期の年2回「留学生による外国語講座」を開催しています。今回は今年5月から6月まで英語講師を務めたモロッコ出身のアディル エル ハッディさんに市民との交流や日本の印象などについてお話を伺いました。

私は2017年8月に来日し、現在の大学院で経営学を学んでいます。留学先に名古屋を選んだ理由は日本の自動車産業、特にその経営マネジメントに魅了されたからです。

ISCには昨年10月から在住し、今年の5月から6月にかけて、「留学生による外国語講座」で英語講師を務めました。私の母国語は英語ではありませんが、受講生の皆さんからは私の英語が聞きやすい、教え方が上手いなどのお褒めの言葉をいただきました。おそらく私自身がネイティブではなく、自らが努力し英語力を習得してきたプロセスをお伝えする



▲外国語講座の様子

ことによって、受講生の皆さんにより深くご理解いただけたのではないかと思います。受講生の英会話のレベルはかなり高く、かつ積極的でした。また皆さんの真摯に英語に向き合う姿には感銘を受けました。様々なコミュニケーションのなかで、講師と受講生の立場を越えた友情も芽生え、私自身も手ごたえを感じました。同時に日本人の礼儀正しさ、温かさを肌で感じることもできました。日本には「おもてなし」という相手を大切にす素晴らしい文化があります。実はモロッコの特徴のひとつとして、人をもてなし、寛大に接することを重んじる国民性があります。そういう意味では日本とモロッコは似ています。私はこの講座を通じて、日本人と日本文化の素晴らしさを再確認することができ、今後も多くの市民の方々と交流できることを楽しみにしています。



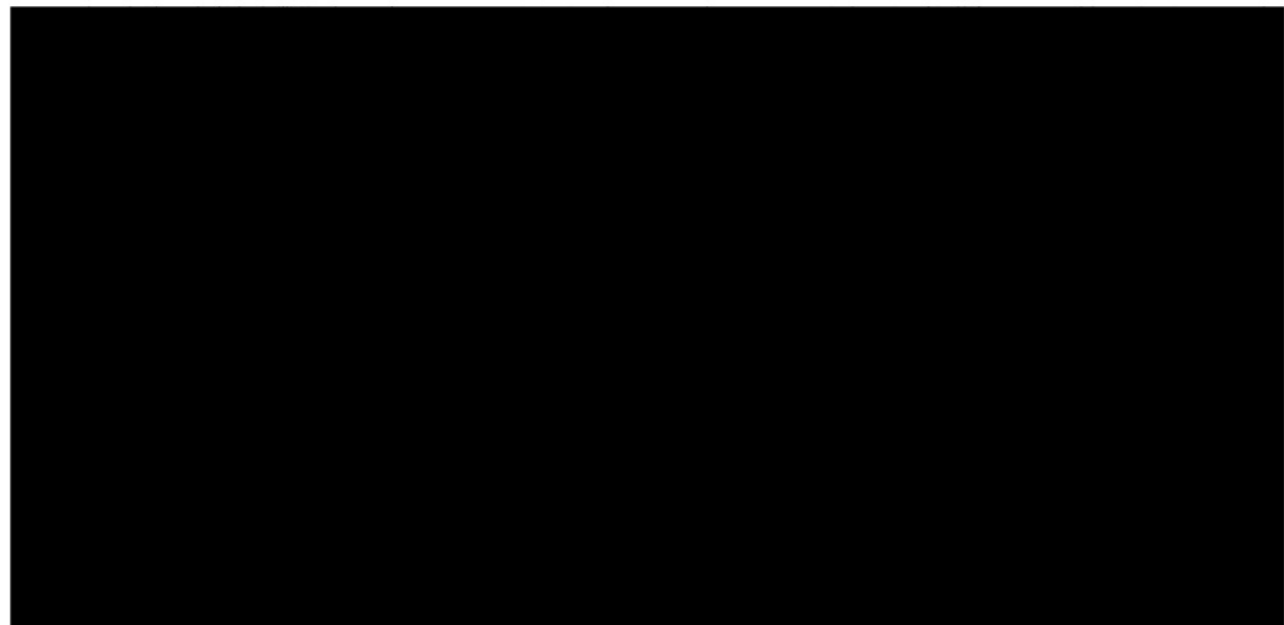
▲2018年秋期入居者歓迎パーティにて(左端がアディルさん)

### 国際留学生会館とは...

NICが2001年から管理・運営している、名古屋市港区にある留学生専用の宿泊施設。居室90室のほか、研修室や和室、体育室などを備え、100名の留学生が生活できる。日本文化理解講座の開催や各種相談・情報提供、地域住民との交流などを行っている。



この地域で暮らす外国人にスポットを当てて、ご紹介するコーナーです。



途上国の現場で活躍する、地域の国際協力NPO/NGOリーダーにお話を伺います。



～国際協力・エチオピア編～ テーマ: 水と衛生教育

現地の人たちが希望をもって、自立できるように!

特定非営利活動法人 ホープ・インターナショナル開発機構  
開発オフィサー 松浦 史典さん



▲設置された水道で水を飲む子どもたち

リーダーズ・メッセージ  
経験に勝るものはない、  
行動あるのみ!



エチオピアでの自立支援に向けた活動を行っているホープ・インターナショナル開発機構。開発オフィサーを務める松浦さんは、小学生の時に飢餓で苦しむアフリカの子どもたちの映像を見たことがきっかけで、国際協力に関わりたいという気持ちが芽生えたそうです。

松浦さんはNGOスタッフを旨とする人向けのセミナーを受講し、同団体でインターンを経験した後、エチオピア駐在スタッフとして現地へ赴きました。頻りに停電や断水があり、初めは不安でしたが、現地の人たちからは逞しさも感じたそうです。



▲簡易水道の設置工事

同団体は現地の人々がきれいな水を近場で手に入れられるように簡易水道・タンクの設置を行っています。また、村落のグループや家庭での衛生教育活動も行っています。「きれいな水」を守るために「簡易水道の近くに家畜を近

づけない」など細かく説明しています。活動する中で、現地のスタッフと衝突することもありました。「一番の原因は働き方の認識の違い」と松浦さんは語ります。「日本人からすると効率が悪く、スケジュールがコロコロ変わることにいら立ちをよく感じました。でも今は自分たち(日本)のやり方を押しつけないようにしています。現地スタッフに主体性を持ってもらうためです。」

数年前からは現地の女性たちにマイクロクレジット(小規模融資)事業を通して簡単な貯蓄方法や商売の仕方を教え、将来を考えて生計を立てる指導をしています。

活動の透明性を保つため、日本で定期的に活動報告会を行い、市民や支援者にエチオピアでの課題が改善されるまでのストーリーを伝えていきます。

団体としての目標は現地の自立に向けた水と衛生の環境改善、松浦さん個人の目標は安定した活動を継続するための資金調達と、日本人とエチオピア人との協働を進めることだそうです。今後はSDGsに関心を寄せる企業と連携し、寄付つき商品の販売にもより一層取り組みたいと語ってくれました。

特定非営利活動法人 ホープ・インターナショナル開発機構  
Web <https://www.hope.or.jp/>



名古屋市とトリノ市は2005年5月27日に姉妹都市提携を結び、来年15周年を迎えます。今回はトリノ市についてご紹介します。



名古屋の象徴「シャチ」と、トリノ市の市章に使われている雄牛をイメージしたキャラクターです。

トリノ市は、イタリア共和国の北西に位置するピエモンテ州の州都です。2006年に冬季オリンピックが開催され、フィギュアスケートの荒川静香選手が日本女子フィギュア界初の金メダルを獲得した場所です。トリノ市は、日本と同じように四季があり、人口はイタリアで4番目に多い大都市です。名古屋と同じく、自動車産業が盛んで、世界有数の自動車メーカー「フィアット」の本拠地でもあります。そのためか、車の交通量が多く、渋滞解消のため、昨年末に、地下鉄の第2ラインの建設計画が発表されました。



▲2006年トリノオリンピック

トリノ市を南北に走る全長約26kmで、現行の第1ラインとトリノ中央駅で交差します。新線には、トリノ大学やトリノ工科大学最寄りの駅が設置される予定で、学生の足としても利用が期待されます。



▲トリノの街並み

### ●名古屋姉妹友好都市協会 会員募集

名古屋市の姉妹友好都市(ロサンゼルス市・メキシコ市・南京市・シドニー市・トリノ市・ランス市)関連のイベント情報が届くほか、会員限定のイベントにもご参加いただけます。また、一般市民向けのイベントに会員料金でご参加いただけます。

個人会員 年額1口 3,000円  
学生会員 年額1口 1,000円

詳しくは事務局までお問い合わせください。姉妹友好都市交流にご関心をお持ちの方々のご入会をお待ちしています!

名古屋姉妹友好都市協会の公式ウェブサイト・フェイスブックでは、姉妹友好都市にちなんだイベント情報などを発信しています。

ぜひご覧ください。

Web <http://nsca.gr.jp/>

Facebook [nagoya.sistercities](https://www.facebook.com/nagoya.sistercities) 検索

名古屋国際センター (NIC) が行う催し・募集などの情報をお知らせするページです。

メールでお申し込みの方へお願い / イベント名、開催日時、お名前、電話番号を必ずお知らせください。

日時、内容などを変更する場合がありますので、予約不要のイベントでも、念のため事前にお問い合わせください。

### ● 講演・セミナーなど ●

#### 日本語ボランティア研修2019 ～開かれた地域社会をめざして～

##### 第5回 お話を聞く会「多文化共生と人権」

講師：近藤 敦氏 (名城大学教授)

近著「多文化共生と人権」から、「多文化共生」の理念について、憲法や人権条約に照らして考えます。諸外国と比べ、日本の制度の問題点がどこにあるのかも確認してみましょう。

日時 9月14日(土) 13:30～15:00

場所 名古屋国際センター 5階 第1会議室

対象 日本語ボランティアおよびその活動に興味のある方

定員 50人(当日先着) 費用 無料 申込 不要

交流協力課 ☎052-581-5689

✉ vol@nic-nagoya.or.jp

#### 名古屋・ロサンゼルス姉妹都市提携60周年記念事業 「映画から知るアメリカ・ロサンゼルス」

映画『ラ・ラ・ランド』(デイミアン・チャゼル監督作品)を活用しながら、名古屋市の姉妹友好都市であるロサンゼルスの魅力や人々の暮らしなどについて学びます。

講師：坪井篤史氏(シネマスコーレ副支配人)

日時 10月6日(日) 13:30～15:30

10:00から映画『ラ・ラ・ランド』を上映します。鑑賞希望のセミナー受講者はご参加ください。

場所 名古屋国際センター 5階 第1会議室

対象 中学生以上 定員 50人(申込先着) 費用 無料

申込 9月11日(水) 10:00より、NICウェブサイト、メール、電話、来館にて受付

(電話と来館の受付時間: 火曜～日曜 9:00～17:00)

交流協力課 ☎052-581-5691

✉ koryu@nic-nagoya.or.jp

#### 外国人児童・生徒サポーター研修～実践編～

現在外国につながる子どもの教育や支援に携わっている方、今後活動再開予定のある実践経験者を対象とした研修です。講義やワークショップを通して現状や制度についての知識を深め、課題やよりよい支援について共に考えます。全3回。

日時 10月26日(土)、11月23日(土・祝)、12月21日(土) 10:30～16:00

場所 名古屋国際センター 5階 第1会議室

対象 外国人児童・生徒の教育に携わる方(初めて受講する方、全3回参加できる方を優先)

定員 40名(選考) 費用 2,000円(3回通し)

申込 9月3日(火) 10:00から9月29日(日) 17:00まで、ウェブサイト、メール、電話および来館にて受付

交流協力課 ☎052-581-5689

✉ seminar-vol@nic-nagoya.or.jp

#### ◆ 外国人を対象とした事業 ◆

##### なごや市民総ぐるみ防災訓練

東区で開催される防災訓練に、NICの災害語学ボランティアと一緒に参加しましょう。災害時の行動や防災について、参加者の母語や「やさしい日本語」で学びます。地震はいつ起きるかわかりません! ぜひご参加ください。

★アクセス：地下鉄「大曽根」駅西改札口に8:10集合、または8:30までに直接会場へ。訓練参加者用駐車場はありません。車の方は周辺のコインパーキングをご利用ください。

日時 9月1日(日) 8:30～11:00

場所 桜丘中学校(東区東大曽根町11番1号)

対象 名古屋市在住の外国人住民(日本人同伴可)

費用 無料

申込 電話・メール・ウェブサイト・来館にて8月29日(木) 17:00まで受付中(電話と来館の受付時間は火曜～日曜の9:00～17:00)

交流協力課 ☎052-581-5689

✉ vol@nic-nagoya.or.jp

#### NIC日本語教室(9～11月コース)

##### ①NIC日本語の会

日時 9月15日～11月24日の毎週日曜日(全11回)

対象 日本語を母語としない方(小中学生は不可、名古屋市在住の方優先)

定員 各コース15名～20名(定員を超えた場合は抽選) 各コースの詳細は、要項またはウェブサイトでご確認ください。

受講料 2,500円 (11回分。別にテキスト代500円～1,000円)

申込 9月8日(日) 11:00～11:30 名古屋国際センター5階 第1会議室で受付後、順次面接。受講料の支払いは12:15から。

##### ②NIC子ども日本語教室

日常生活や学校に必要な日本語の学習支援を必要とする子どもたちを対象とした日本語教室を開催します。

日時 9月15日～11月24日の毎週日曜日 10:00～11:30

対象 ・日本語を母語としない6歳から15歳までの子ども(2004年4月2日～2013年4月1日に生まれた子ども) ・2004年4月2日より前に生まれ、現在中学校に在籍している子ども

\*中学夜間学級に在籍している方はNIC高校生日本語教室にご参加ください。

定員 60人(選考) 受講料 1,000円(11回分)

申込 9月8日(日) 9:45～10:15 名古屋国際センター4階第3展示室で受付後、順次面接(保護者または引率の方の同席が必要)

##### ③NIC高校生日本語教室

外国人の若者が高校を修了し、キャリア形成につなげられるよう、教科学習に必要な日本語の基盤を築く教室を開催します。

日時 9月15日～11月24日の毎週日曜日 14:00～16:00

対象 外国人高校生および高校進学を目指す外国人の若者(2004年4月1日以前に生まれた人。中学夜間学級を除く中学校に在籍している方はNIC子ども日本語教室にご参加ください。)

\*市内在住または市内高校在籍の方を優先します。

定員 20人(選考) 受講料 2,000円(11回分)

申込 9月8日(日) 14:00～14:30 名古屋国際センター4階第3展示室で受付後、順次面接。受講料の支払いは15:15～。定員に満たない場合、9月15日以降も参加を受け付けます。9月15日以降に申し込みをしたい場合はお問い合わせください。

##### ①②③とも

交流協力課 ☎052-581-5689

✉ vol@nic-nagoya.or.jp

#### NIC地球市民教室 外国人講師募集

「NIC地球市民教室」は、外国人講師が小中学校や地域の団体に出向き、さまざまなテーマに沿って母国を紹介する国際理解教育事業です。この教室で活躍していただける外国人講師を募集します。1回につき、名古屋市内の講演は6,000円、市外の講演は8,000円の講師料を依頼者よりお支払いします(税金・交通費込み)。詳しくは募集要項をご確認ください。

【主な条件】①日本語で講演ができること。(書類選考あり) ②事前の面接と研修(9月28日(土)面接13:00～、研修14:00～16:30実施)に参加できること。

【申込】所定の申込書を郵送、Eメールで送付、または持参。9月21日(土)17:00必着

募集要項・申込書はNICウェブサイトからダウンロード可。 交流協力課 ☎052-581-5691

✉ koryu@nic-nagoya.or.jp

#### ■ イベントなど ■

#### 外国語で楽しむ絵本の会

外国人ボランティアによる外国語の絵本の読み聞かせです。絵本を通して外国の文化に触れることができます。8月は中川図書館、9月は中村図書館でも行います。

日時 ①8月7日(水) 14:30～15:00 英語・スペイン語 ※(中川図書館)

②9月7日(土) 10:30～11:00 英語 ※(中村図書館)

③9月22日(日) 14:00～14:30 英語ほか

場所 ①中川図書館(中川区吉良町178番地3) ②中村図書館(中村区中村町茶の木25) ③名古屋国際センター3階 ライブラリー

費用 無料 申込 不要 交流協力課 ☎052-581-0100

✉ info@nic-nagoya.or.jp

#### 【共催事業】やさしい日本語劇団自主公演 「やさしい日本語どんなもの?」 ～みんなで考える私たちの日本語～

日本語勉強中の人や旅行で日本を訪れた人は、職場や学校、地域、訪れた先で、どんな日本語に困ってしまうのでしょうか?地震や台風など、緊急時や防災で私たち日本語話者に求められる心配りとは? “やさしくない日本語あるある”のコントとワークショップで、「やさしい日本語劇団」と一緒に「やさしい日本語」について考えましょう。

日時 8月18日(日) 14:00～16:00(受付13:30～)

場所 名古屋国際センター 別棟ホール 定員 40人(申込先着) 費用 無料

申込 「こくちーず」専用申込ページ(QRコード)で受付中。定員に達し次第締切。

交流協力課 ☎052-581-0100

#### 名古屋国際センターサポーター募集中!

NICの活動を支援していただくために、サポーター(賛助会員)を募集しています。みなさまのご協力をお待ちしています。

年会費 学生1,500円 個人5,000円 団体50,000円 ※会員期間:学生・個人(令和2年3月迄) 団体(入会月から1年間)

団体賛助会員 5・6月更新団体 愛知淑徳大学、(有)しら河、瀬戸市役所、中部電力(株)、名古屋信用保証協会 (50音順)

#### みなと国際交流のつどい

九番団地で、国籍も年齢も関係なく楽しめるお祭り「みなと国際交流のつどい」を開催します。屋台やおぼけやしき、防災や防犯、ゴミの分別について学べるコーナー、盆踊りなど、楽しいイベントが盛りだくさんです。イベントを通して、住民どうしの顔の見える関係づくりをめざします。

日時 8月31日(土) 15:00～18:30

場所 九番団地1号棟前広場及び集会所 (港区九番町1丁目1-1 地下鉄名港線「東海通」4番出口から北へ徒歩5分)

費用 無料 申込 不要

交流協力課 ☎052-581-5689

✉ vol@nic-nagoya.or.jp

#### 【共催事業】アメリカ留学フェア2019

米国高等教育機関約30校の担当者及び卒業生が来場。個別に入学要件・専攻・奨学金や現地生活について質問できるチャンスです。留学関連機関による特別セミナーも開催予定。申込は不要ですが、事前登録をしてくれた参加者全員に記念品をプレゼント。アメリカ行きのフライトチケットも抽選で当たります。詳細および事前登録についてはアメリカンセンター JAPANのウェブサイト(QRコード)にてご確認ください。

日時 9月16日(月・祝) 13:00～17:00

場所 名古屋国際センター 別棟ホール

費用 無料 申込 不要

交流協力課 ☎052-581-8631

✉ nacprogram@state.gov

#### ニック・ニュース読者モニター募集

本誌の読者モニターを募集します。皆さまのご応募をお待ちしております。

期間 2019年10月1日から2020年9月30日までの1年間  
内容 「ニック・ニュース」(2019年10・11月号から2020年8・9月号まで1年間、隔月発行)及び「子どもニック・ニュース」(冬号・夏号の2回発行)のアンケート回答と読者モニター交流会(年2回程度)への出席。1年間活動いただいた方には、活動終了時に3,000円分の図書カードを贈呈します。

人数 10名程度(応募者多数の場合は選考)

申込 氏名、住所、電話番号、職業、性別、ニック・ニュース8・9月号(今号)の感想文(200字程度)を添えて、郵便、FAXまたはメールでお送りください。

申込期間: 8月8日(木)～9月11日(水)(必着) 〒450-0001 名古屋市中村区那古野1-4-7-1 名古屋国際センタービル 3階

(公財)名古屋国際センター 広報情報課 ニック・ニュース係

交流協力課 ☎052-581-0100 FAX 052-571-4673

✉ news@nic-nagoya.or.jp

#### 名古屋市在住外国人人口(国・地域別) 上位8か国(令和元年6月1日現在)

| 国・地域         | 人数        |
|--------------|-----------|
| 1位 中国        | 23,731    |
| 2位 韓国・朝鮮     | 16,536    |
| 3位 ベトナム      | 10,130    |
| 4位 フィリピン     | 9,339     |
| 5位 ネパール      | 7,390     |
| 6位 ブラジル      | 4,659     |
| 7位 アメリカ      | 1,576     |
| 8位 台湾        | 1,204     |
| 名古屋市在住外国人総人口 | 86,255    |
| 名古屋市総人口      | 2,325,918 |

裏表紙にも催しのご案内があります。ぜひご覧ください!

#### 編集後記

今号の特集はカラフルで多国籍、楽しんでいただけるかなと期待します。イベントも満載で、夏に向けてNICがにぎやかになりそうです。(晴)